

第2回宇治市観光振興計画策定委員会

会議要点録

日時：平成24年7月20日（金）午後2時～

場所：うじ安心館3階 大会議室

次 第

1. 開会
2. 宇治市観光振興計画案の全体像について
3. 宇治市観光の特性と課題等について
4. 宇治市観光振興計画の基本方針について
5. 観光戦略について
6. その他
7. 閉会

（資料）

- 資料1 宇治市観光振興計画（第2回策定委員会資料）
- 資料2 宇治市観光振興計画案の全体像
- 資料3 全国の観光地の中の京都、京都の中の宇治の位置づけ など
- 資料4 観光戦略の指標値を選定するにあたっての参考資料
- 資料5 検討課題
- 資料6 第2回宇治市観光振興計画策定専門委員会からの意見・提案

< 出席委員 >

坂上 英彦	京都嵯峨芸術大学教授
森 正美	京都文教大学教授
神居 文彰	平等院住職
北村 善宣	社団法人 宇治市観光協会副会長
古賀 則行	平等院表参道商店会会長
杉本 貞雄	社団法人 京都府茶業会議所会頭
通円 亮太郎	宇治源氏タウン銘店会会長
中西 敏	宇治橋通商店街振興組合理事長
八木 一樹	公益社団法人 京都府観光連盟専務理事
山本 哲治	宇治商工会議所会頭
林 啓志	京都府山城広域振興局農林商工部長
木下 健太郎	宇治市都市整備部長
中谷 俊哉	宇治市教育部長
中村 俊二	宇治市総務部長
松田 敏幸	宇治市市民環境部長

事務局：宇治市産業政策室商工観光課
(株式会社グリーンエコ)

敬称略
宇治市観光振興計画策定委員会名簿順
(委員長 副委員長)

【1.開会】

【坂上委員長】

委員長を仰せつかっております坂上でございます。定刻になりましたので、ただ今から始めさせていただきますと思います。本当にお忙しい中、また、梅雨が終わったというのに、また雨があたりしておりますけれども、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

円滑に進めさせていただきますので、よろしくご協力のほどお願いします。では、座らせていただきまして進行を務めさせていただきますと思います。

今日は2回目ということで、全体像をお示しいただいております、その中で、現状と課題をどう認識するか、目標をどう設定するか、方針、具体的な戦略、アクションをどうするかとかいようなフレームをお示しいただいております。多くの資料がございますが、できるだけ皆様方にご意見をお伺いする時間をとりたいと思います。事務局には30分程度で本日の資料全体を説明していただくようお願いいたします。

【2.宇治市観光振興計画の全体像について】～【6.その他】

【事務局】

《資料1～6》の説明。

【坂上委員長】

ありがとうございました。今までのご意見を含めて、計画案としての全体像の中にあてはめてご説明をいただきました。特にこの全体像の中の数値目標の設定の仕方についても、数多くの資料がございますので全部これを目標にするのかどうかというようなところもございます。今の全体のご説明の中で、現状の課題の認識でも結構でございますし、基本方針の目標の設定、基本理念、観光の方針等々、どんなところの部分からでも結構でございますので、ぜひご意見をいただきたいと思います。神居委員のほうは早く退席されるとお聞きをしておりますので、お願いいたします。

【神居委員】

今、委員長のほうからご指名がありましたので、事務局からお話を聞かせていただいた上で、少し資料に向けて何か発言をさせていただきたいと思います。まずさっき事務局が言いました観光方針について、コンセプト、目標の設定で、宇治市が既にやってきている宇治茶と歴史と文化の香るまち、これ、非常に良いキャッチではあるんですが、宇治茶だけを抜いたら全国同じようなところっていっぱいあるんですよ。歴史と文化の香るまちといったらネットで引いたら幾らでも出てくるわけで、となると、やっぱり宇治というのは宇治茶であるなど。でありながら、宇治に来た方が、京阪もしくはJRを降りたときに、へえ、お茶なんだと思える仕掛けがどこにもないと思います。ですから、宇治茶ということ、全面的に宇治市が出すのであるならば、宇治茶を観光として使う作戦を練っていく必要があるかなと思います。

この会議は少なくとも、観光で何がしたいのか、観光振興計画策定のための骨となる部分、スローガンの骨となる部分を確立させた上で、専門委員会に持って行くことが必要なのではないか

などと思います。

私は、観光のほうの底辺を支えている施設を預かっていますので、満足度ということを重要に考えています。また、ここに来ないとわからない、現場に来ないとわからないという出会いを大切にするために、全国各地で宇治に来ていただける仕掛けもさせていただいていました。

例えば、九州新幹線が全通する前の年には、鹿児島において、平等院という名前、宇治という名前をすり込むために、平等院展を行いました。また、鳳翔館という博物館ができる前には、全国巡回の平等院展ということもしています。2年後、3年後を目安にして、どこか旅行に行きたいと思ったとき、宇治市を選んでいただく。ただ、来てがっかりされるということでは困るので。このコンセプト、少なくとも歴史と文化をとというのは、どこでも重なるので、宇治茶、降りたってお茶なんだというまちづくりを考えていただければと思います。

特に今、東京で流行っている本の1つには、ご当地ショップという本がものすごく売れています。その中で、東京駅の一番八重洲の近いところには、京都のご当地ショップがありますが、その一角に残念ながら宇治のブースはないんですよ。きっと、そういったことからやっていかななくてはならないかなと思っています。また、コンビニでも毎回同じものでも違う種類のものがあって、お茶に関してもいつも同じでは駄目なので、お茶の方々と十分議論をしながら、こういった形でお茶を展開していくか議論が必要です。

コンセプトについては、世界遺産とお茶と文化じゃなくて、もっと絞って、世界遺産とお茶と文学ぐらいまで、いわゆる源氏物語等を含めて発信していけばいいかなと思います。この地区に2つも世界遺産があるというのは、非常に大きなことだと思います。さらに世界遺産を目指しているお茶、そして世界に名だたる文学の源氏物語、こういったものをそろえているところはない。この宇治観光の底堅い満足度って何かというと、日本人のアイデンティティーすべてがそろっているからじゃないかなと思っています。そういったことをこの会で、いちいち細かいことは別として、大きな方針を決めて進めていけばいいんじゃないかなと、そんなふうに思っています。

数値目標のことは、これを600万人にする、700万人にするということは非常に無意味だと思いますが、今、400万人が500万人になり、そういった観光客の増加がありながら、一方で、駐車場の数が足りないとか、トイレの数が足りないとか、そういった課題が出ています。500万人の観光客で一体何パーセントが車で来ているのか、今後、公共交通機関にシフトさせるのかも含めて駐車場がどのくらい足りないのか、トイレがどのくらい足りないのか、もしくは休憩場所がどのくらい足りないのか、または500万人来ていただいた上で、観光資源というのは本当にどのくらい足りないのか、という現状把握だけはしていただきたいと思います。そうじゃないと、なかなか議論というのがしにくいところがございますので。私は特に何万人、何千万人ということを目標とするのではなく、今の現状を十分把握しながら進めていけばいいのではないかなと思っています。

こんな感じです。あとは議論を進めながらと思っています。

【坂上委員長】

ありがとうございます。非常に重要な観光の核になる部分をご指摘いただいて、また数値目標ということで、目標ではなくて数値を明らかにすることの重要性という点をご指摘いただいたと思

います。今のお話に絡んでも結構でございます、ほかの方、ご意見ありましたら、ぜひ。北村委員、お願いいたします。

【北村委員】

やはり「宇治茶」とお茶というのが常に頭にきます。しかし、それを魅力として、こちらにも書いていらっしゃるように、全国的な高級ブランドですが訪問目的になっていないというところが一番問題だと私は思うんです。お茶と観光のまち宇治というのは、もう何十年も叫ばれておりますが、一番言いやすい言葉だから言っているのかなという感じもします。この特産であるお茶を生かした抹茶料理とか喫茶メニュー、スイーツ、そして抹茶を生かした多彩な食品が新たにたくさん生まれています。抹茶豆腐、あるいは抹茶うどんもある、そばもある。そこで、やはり私、近年感じているのは、お茶づくしの語れるいろんなものが、あまり表現されていない、認知されていないと思います。茶団子1つとっても大正12年には生まれていたと聞いていて、もう90年の伝統がある。このことから、大いに茶を使った食文化が根付いていると私は思うんですが、その辺のところをもう少し、この方針の中に取り込んでいただけたら、そういうことは何らかの方法であればいいのかなと感じています。

【坂上委員長】

ありがとうございます。観光戦略アクションプランの一番最初に宇治茶ブランド活用戦略というのがありますが、具体的には、そのところで記述をされていくのではないかなと思います。

【神居委員】

私も基本的に賛成だと思います。観光ということであるならば、宇治は宇治茶に染まったらいいと思う。駅に降りたとき、お茶だなというまち。それを、例えば萬福寺で降りたらお煎茶だなとか、宇治の駅を降りたらお抹茶だなとか、そういったまちがお茶で感じられるというまちであったら非常に面白い展開ができるんじゃないかなと思います。

あわせて、世界遺産を観光として、もし考えるのであれば、今から20年ほど前ですけども、平等院表参道、あちらを石畳にするときに案として例えばで、こんなのはどうかと言ったのは、丁石。歩いて行って石畳のところに、平等院まで何丁だとか、あと十丁、十二丁とか、そんなのを、地に、足元に刻むだけで、非常に歩いていて面白いまちにする。そして、まちの人が、ここのお店は十丁のところというように表現する。実は、善光寺とか、そういうことをしているんですね。まちづくりというのは、きっとそういうことだなと。もし世界遺産の平等院を観光の資源として少しでもするんだったら、まちづくりの中でそういった仕掛けをつくる。丁石も1つですし、まちのあり方自体もそうです。お茶もそうだと思います。ですから、煎茶、お抹茶、スイーツ、それぞれ宇治茶に染まったまちづくりをしてみたら面白いと思います。現状はそうではなく、宇治茶という名前だけで、実は和東であったり、京都市だけであったり、いろいろとみんな、それぞれのお茶所の宇治茶と名前を冠したところが、お互い遠慮をしながらしている。それこそ宇治は、世界遺産があり、なおかつお茶所であるというぐらいにしていればいいんじゃないかと思います。そのぐらい大胆に施策をしてもいいんじゃないかと思います。800年以上続いたお茶

所、そして、新しい展開のお茶、というような古くて新しいお茶のまちがあったらうれしいかなと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。宇治茶に染まるまち、いい印象になるかと思います。どうぞ。

【通円委員】

平等院通り、現在の銘店会、宇治橋通商店会なんですけれども、それに携わっている人の心を動かしてやっていかないと。現状を見ていましたら、新しく新規によそから来られて商売を始められた新しいお店の方々は一所懸命やっておられますけれども、既存の店舗の方は、打ち合わせも含めてなかなか会合があっても来てもらえない。それからイベントがあっても参加しないというようなことが多いですので、そういう方々を目覚めさせないと、なかなか、まち全体が良くなっていかないとと思うんです。

4月に美濃市を見学に行ったんですけれども、美濃市なんかの場合は、全体が、そういう町並みもそろえられておられまして、ものすごくいい雰囲気なんですね。だんだん宇治も、そういうふうになってきていますけれども、まだまだ町並みがそろっていないように思うんです。せっかく宇治橋通りさんも電柱地中化で通りやすくなったんですけれども、いざ実際商売をやっている方が、それにふさわしい形態で商売をされるかといったら、そうでもないように思いますし、先ほど、神居住職が、宇治駅、京阪、JRの駅を降りてもお茶のイメージがしないとおっしゃったんですが、見せ方が下手やと思うんです。JR宇治駅の前には、茶摘み人形のからくり時計がありますし、アーチも確かお茶摘み娘のアーチがありますし。京阪の宇治駅も、ホームに立ったら見えるんですね、太閤堤。そして宇治橋はお茶の木が植わってあるんですけれども、全然目立たない状態です、いつまでたってもお茶の木は大きくなりませんし新茶も摘めないような状況です。皆さんがばかにしている。からくり時計についても、何や、あんなもんというふうなうわさも聞きますし、そういったことで、何か全体的にトーンダウンしていますので・・・特別風致地区ということで、景観というのは相反するものがあるんだらう、目立つものというものは相反するものがあるんですけれども、そういったものを、うまく調和させてまちづくりをさせていかないと、なかなか町並みはそろっていかないと発展していかないとないんじゃないかと思います。

そして、観光方針の1番の宇治らしさを極めるで、社寺仏閣ときていますけれども、興聖寺も、ぜひとも、その中の1つに。これには書かれていませんので。興聖寺さんって、非常に古く、雰囲気もいいですし取り入れてほしいなと。秋には、参道に大きなモミジが色づくわけですけれども、あのモミジもバラバラなんです。全体にまとまって紅葉しないという状況ですので、何とか、この秋にも、紅葉がきれいやなというような思いをしていただけるようにしてほしいなと思います。以上です。

【坂上委員長】

ありがとうございます。関係者の基本づくりが重要だと。そのためには、時間を合わせて何かキャンペーンを、みんなで何か1つの目標を決めて進んで行くという、そういうのをきっかけに

していくというようなことが必要かもしれません。

【通円委員】

この秋に、初めて京阪電車さんと合同で、伏見の商店街と宇治の商店街とコラボいたしましてスタンプラリーというのを9月15日からやります。これも初めての企画ですが、宇治は、宇治橋通商店街さんと平等院表参道商店街さんと宇治源氏タウン銘店会で、伏見は大手筋商店街、納屋町商店街、龍馬通り商店街。この6商店街が一緒になってPRしてお客さんに来てもらうという形です。また京阪電車ですけれども、13000系という新車が入りまして、すべて宇治線は新車になりました。そのため今、キャンペーンをされているんですが、そのカードも、すごいいろいろな種類やアレンジをしてがいただいているわけですが、非常にたくさんの方がご利用になります。そのカードを持ってこられる方の中には、やはり鉄道マニアという方がおられまして、男性2人で回るとするのは珍しいかと思いますが、男性2人で電車に乗って宇治のまちを楽しもうという人がちょっと増えてまいりました。

【坂上委員長】

なかなか観光地で総合的な体制づくりができていところが意外と少ないので、ぜひ、そのような計画づくりの中心に体制づくりができるといいなというふうに思います。もう1点は、どうでしょう、ここの観光は、門前町形式ですよ、位置的に言いますと。やはり門前と本来の社寺とのバランスが、非常にいいといいんですけど。私もいろんなところに行くと、門前ないほうがきれいなところがたくさんあって、門前が逆にマイナスになっているところもありますので、その相乗効果がうまく出せるように相互に魅力を高められればいいのかという気もしますが。観光連盟さんのほう、今のお話を聞いて、何か協力を兼ねてご示唆いただくようなことがありましたら。

【八木委員】

基本的には、宇治の魅力として、世界遺産2件、それから源氏物語の関係の3つが柱になると思います。それぞれ宇治茶は宇治茶の中で、それをさらに、どう生かしていくかということをやっているかなあかんと思いますし、それから、源氏物語も、何か見方を変えたら、もっと新しい物語が皆さんに見せることができるのではないかなという思いはあります。それで、それをどう組み合わせしていくかということだと思います。

それと、トータルデザインというのは本当に必要やと思いますし、それぞれ京阪なりJRの駅を降りたときに、ここは、こういうまちなのかと、そういうふうなイメージが起こることが必要だと思います。それからワクワク感というのが大変必要だと思っております。例えば、京田辺市で、一休さん、一休寺のところですけども、今、駅を降りてから一休寺までの道を、一休さんロードとかいうようなことも何とかできないかというようなことで考えておられまして、そういうトータルデザインでワクワク感が必要かなと思っています。

また、1回目に来られる方と、リピーターの方とは、やはり中身が違いますので、それはもう少し体験型のものを組み入れることが必要かと思いますが、体験型でいくと多分、何回も何回も

来られると思いますので、そういう戦力が必要だと思っています。それから情報発信も、先ほどありましたように、戦略的に、いわゆる京都府以外のところに発進する情報と、このエリアの中に出す情報を、やっぱり色分けしながらやるべきだというふうに思っています。

一番大事なのは、この宇治市民の中で、観光関連の事業者さんがとってやるべきこと、それと、それぞれ、直接観光じゃなくても、喫茶店なり、いろいろな商売をされている方、商店街の方、それから一般の市民の方、それぞれの立場で宇治の観光地として、観光地づくりをやっぱり理解してもらって、一緒に観光地としてつくっていくというような気構え、機運が何か盛り上がるように、何とか、そういうきっかけづくりが必要かというふうに思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。盛り上がりには、どなたかカリスマ性を持った人が必要なような気もいたしますけれど。杉本委員、お茶の話が出ておりますが。

【杉本委員】

昨日、山城地域で宇治茶を世界遺産にという、山城地域の設立委員会をやらせていただきました。条件としては非常に大変でございます。すごい大変なんですけど、大変であるからこそ、やりがいがあるのではなかろうかと。ちょうど観光という問題で新聞に出ておりましたのは、アメリカの旅行業者が、北米の富裕層を中心に月間 100 万部を発行する月刊誌「トラベル・プラス・レジャー」の中の世界の観光都市ランキングに、初めて京都が世界 9 位に入ったと。1 位がバンコク、2 位がフィレンツェ、イスタンブール、ケープタウン、シドニー、ローマ、ニューヨーク、香港、京都、パリと、こういう順番で、日経の 7 月、今月に入って載ったものを、ちょっと見たんです。その中で京都市が、寺社や伝統産業を高く評価されて、日本で初めて入られたということを見させていただいて、やはり京都市との連携を宇治市はもっと強めていかれたらどうかと思います。

私も茶業のほうも、午前中、通円さんも一緒にしたんですけど、宇治で業界として何か大きく出すと、どうしても業者の人との競合になってしまう。いわゆる同業、組合員の利益を圧迫することや業界談合ということにも成りかねない。もちろん、匠の館という形で業界としてはやらせていただいております。これも、認知もしていただいておりますし、私どもの顔としてやらせていただいているんですけど、やはり同業者にとってどうなのか。それも踏まえて、反対に業界として京都へ出て行きたい。業界として京都市内へ出て行こうかなという、ちょっと午前中会議をしておりまして。やはりそういう意味で、宇治だけで何とかしていこうというのは、なかなか難しい時代に入ってきているんじゃないかなと。

じゃ、駅前をどうのこうのせい、あるいは町並みをどうのこうのせい言うても簡単にできる問題でもない。口で言うのは易でしょうけど、家 1 軒つくるのにも大変なことだと思います。そういう意味で今日、八木さんもお見えですけど、やはりつながりというんですか、こっちからも出て行って、やはり宇治を紹介していく必要があるのではなかろうかなと。宇治茶、宇治茶といっても、宇治茶のギャップがある。というのは現実、魚が肉に食われて、米はパンに食われて、お茶はコーヒーに食われています。いわゆる洋風化です。当然、値段が安いんですよ、洋風化の

ほうが。簡便性もある。今の若い人は、どうしてもそれに入りやすい。だから、そこらも踏まえて、もっと、さっきも言われた美濃みたいな田舎なら、そのまま残っているわけです。でも、宇治みたいな近代都市は、なかなか残らないです。そこらも踏まえて、やはり出かけていくということが大きい1つの観光になるんじゃないかなろうかなという感じも受けております。以上でございます。

【坂上委員長】

ありがとうございます。古賀委員、いかがですか。

【古賀委員】

この委員会って具体的に変わっていくことを話し合う、そうですね。もっと具体的に、やっぱり話を詰めていかなあかんのかなと。

【坂上委員長】

そうですね、この表の2つ目の観光戦略アクションプランのところは、具体的に書いているので、幾らお金がかかるのかというような部分も含めて、やっていかないといけないんですね。

【古賀委員】

僕ら、商店街としては、商店街としてやれることを考えていきたいんですけども、あまり高尚なもの過ぎると、実際に具現化をするのが難しくなるんじゃないかという懸念があって、もっと僕らみたいなレベルの人間でも理解できて、ちょこちょこっと見よう見まねのものが安価でできるような、そのようなもの、具体的な案が出たほうが、実際に変えていけるんやろうなというのがあって。すごい難しい話のことは、それが説明得意な方で話し合っていていただいて、意見を出すこともできますし。実際に、本当に変えていくためには、まちぐるみで変えていくためには、高齢化もしていますし、そういうお年寄りの方でも理解できるような言葉にして物事に落とす。でも、そういう方でも参加できるようなものってあるじゃないですか。そういうものも含めて考えてもらいたいかんと思っています。僕ら商店街が今、活動している中で、難しい言葉で話しても理解してもらえないですよ。理解できなかつたら、やっぱり不安なのか、いいわ、いいわと言わはるんですよ。私そんなんいいわて。でも、いいわと言われたら、あかんことってあるでしょう。今回、8月ぐらいに、Wi-Fiが商店街でも実際に本当に現実に始まるんですよ。そこでも、やっぱり最初は、ええわ、ええわ、そんなん言うてはったんですけど、それ、ええわと言われたら、そのスポットが抜けるから、Wi-Fiの意味がなくなるんですよ、エリアをつなぐのに。それやったら困るからいうて、臨時総会をかけてやったんですけど、説明も、取りあえず業者を来させたほうが早かったから、来させて、よく聞いてもうて、わかれへんかったら、もう1回、何回も行ったんですよ。僕も行ったし、業者も各個店さんに回って行ったし。それで、やっと通りの全軒入ってくれはったんですけど。だから、そういうふうな感じで、まち全部を変えるねんやったら、1つ、2つぐらい落として、やんわりとした感じで進めたほうが多分、実際に変わっていくんじゃないかなと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。できた後、地元への入り方とかというのが結構重要だと思います。やっぱり何だかんだ書いていても、その人の笑顔とか、地べたがすごくにぎやかだとか、それは、この計画ではなかなか書ききれなくて、そこのお店の人が自ら進んで一緒に取り組んでいく必要がありますので、そういうところまで、この計画が浸透できるように、ぜひ持っていく必要があると思います。それは恐らく多分、市役所の限界でもあるんですね。市役所は笑顔で売っている組織じゃないので、笑顔で売る人たちに笑顔で売ってもらわないといけない。そこは役割分担をちゃんとしながら。今おっしゃられたことが重要になる。そのところが結局、経済効果をもたらす入り口が一番重要だと思いますので。ぜひ何か、今後のフォローアップ態勢とありますが、最後の態勢のところ、どのように個々の店までこの計画を浸透して一緒にやる、あるいは一緒にやれる事業を、このアクションプランの中に入れておくということが必要になるかなと思います。

【古賀委員】

多分、そうしないと反映でけんというか、端のほうまで参加してもらわへんかったら、街が変わったなという印象、全然つかへんと思うんですよ。

【坂上委員長】

ありがとうございます。中西委員、いかがでしょうか。前は、皆さんのご意見が活発で、時間が足りないぐらいだったんですけど、今回は若干、おとなし目なので、ぜひ活発にご意見をいただきたいと思います。

【中西委員】

この資料を読んどったら何か結論がもう何か奥のほうに描かれているような感じがしたんですけども、観光の質を高めると最初おっしゃって、その辺から、今までよりは結局、量から質への転換やと。今500万人は、ちょっと割りましたけれども、その人たちの内容ですね。先ほど、このデータでいろいろ満足度がありましたけれども、結局、歩く人、ウォーカーといったら、弁当を持って、たくさん来られてごみを捨てるだけやと。実際に金を使うてくれるのは、やっぱり鉄軌道の人たちやと思う。車の人は、ただ来て、ビジネスの直行直帰みたいなもので、何か駐車場の料金だけ払うて帰る、それと施設の利用料ですね。ということは私、前回言ったように、やっぱりこれを見ていたら、やはり、女性の歩く人が圧倒的に金を落として、やっぱり税収を保っているような気がするんですよ。ということは、やっぱり絞っていかないかなと。ここで資料を見ていたら、やはりリピートのことが非常に重要視されている。重要やと私自身も思っています。そこで、この資料3の2ページなんですけども、地元ならではのおいしい食べ物が多かった。これはリピーターの目的ですね。また来る動機とか、目的をもっとグッと絞り込んでやっていると、先ほど古賀君が言うた商店街とか、具体的に計画を立てていけるわけですね。命題を与えたらね。そこで、それぞれの計画が集まったら、宇治全体の計画になってしまうというふ

うに。あんまり指標をいっぱい出してくると具合が悪い。まして、世界で9番目の京都市を横に持ってこられるとあまりにもね。もうちょっと頑張ったら届くような都市を示してもらわんと。あまりにもかけ離れすぎて、それやったらリピーターのこの辺を表にもっと絞って、我々も知恵を出して行って、計画をまとめていったほうがわかりやすいし、楽しいん違うかなと思っています。そういうところですけども。

【坂上委員長】

ありがとうございます。皆さんの積み上げのアイデアを、この計画の中に全部盛り込むには多分、時間が何ほあっても足らなくなるので、大枠の方向だけ決めておいて、個々については、それぞれの方がアイデアをもらいながら、市のほうなり観光の団体さんとかと一緒に個々に研究をしていくというスタイルが重要なのかなというふうに思います。個々のすべてを全部出していきますと、相当な時間がかかると思いますので、ある程度、自由な、皆さんから笑顔をもらいながらやるキャッチボールの、そういうものが必要になってくるんじゃないかなと思います。

【中西委員】

それともう1つ。近隣住民の方、今回、ある意味で一応協力はして何か一緒にやっているように、要するに知らせて行って、一体感というか。そうならないかもしれませんがね。そういうことを一緒に、同時に計画を情報公開みたいな感じでやって行って進めていくということが、これからの観光に必要と違うかなと思っています。一緒にやっているという意識を持ってもらうためにね。その辺ちょっとつけ加えさせてもらいたい。

【古賀委員】

中西さんところは、商店街の距離が長くて、普通の住まいとかもあって、商店が詰まっていなくて、そこを言われるのは、すごくわかるんですけど。表参道でも、藤のイベントのときに、商店だけじゃなくて、藤の鉢を個別に40ほど用意して、そのときだけ無償で民家のところにもパンと置かせてもらうんですよ、全部。今年からやったんですけどね。そしたら、やっぱり一体感が出たんです。ほんで、別に嫌がることもなく、すごい喜んでくれはったし、民家の方も、住民の方も、ありがとうというて、今までこんななかったしというて。今までアクションがなかっただけで、もしかしたら一緒にやりたいと思う人もいると思う。別に、店やってる、やってへん関係なく。ただ、ちょっと一歩進んで声掛けてね。

【中西委員】

それが大事というかね、その辺につながっていくと違うかなと思うんですけど。

【坂上委員長】

地道な活動が結構、地域で行われていることが実を結びますので、そういう1つずつのことを大切にしていく必要があるのかなと思います。ぼちぼち先生のご意見をいただきたいと思いますが。

【森委員】

なるほど、なるほどと思って、今伺っていたんですが、今、例えば3商店街を代表される会長さん、理事長さんがお話になって、何かすごく、元気が出るなど本当に思いました。でも、こういう場で、こういう発言をしていただけるようなお付き合いまで深まっていくまでに、10年ぐらいかかったんやなというのも同時に思いました。というのは実際、先ほど古賀さんが、もっとわかりやすいことを話してもらえんかったら、それぞれのお店ではやってもらえんという、本当に実感のこもったお話があって。私は中西さんの宇治橋通商店街さんと一番お付き合いは長いんですけど、それでも最初に回ったときに、もうちょっと若かったというのもあったと思うんですけど、何しに来たん、この人、という感じが、まあまああって。それまでもいろいろ努力をされていたんだけど、もうやっても変われへんと。何か大学で、やらはるのかもしれんけど、そんなん、どうせしたって同じやし、というところから始まって。でも、やっぱり古賀さんがおっしゃったように、ちょっとしたおせっかいというか、いい意味で、あきらめんとお声がけをすることが、結果的には理解が深まるというか、サポーターが増えるというか、そういう道なんやなということは本当に思いますし。やっぱりそれを、先ほど近隣の方というふうに中西さんがおっしゃったのは、うちの大学は地元でお世話になっていることもあって、そういう意味では、中西さんのところとかからは、ちょっと飛び地やけど町内会みたいなもんやしというふうにおっしゃっていただいている。そういう意味では、大学の役割というのは一定あるのかなと。

だから、先ほどの、推進体制のところ、誰が何をやるねんという話をするとき、幾つかの段階に分けて、市はここまでの責任を持つと。例えば、観光戦略アクションプランを書くときに、実施主体みたいなものをきちんと、ここはここがやる、ここはここがやるというのを合わせて一定、書き込んでいくような形にしつつ、神居さんも指摘されたんですけど、やっぱり全体としての、まちづくりということ、結局、宇治のまちとして、どうするねんという話をしていけないようなというふうに思いました。

なので、1つ、具体的な提案としては、メディアの方もたくさんいらっしゃっているので、今やっているこの議論をたくさん市民の方に、途中経過から開いていくということを何か考えたらいいんじゃないか。例えば、バリアフリーをやったときも、道づくりをやったときも、回覧板などで、ニュースレターとか、そういうようなものを出していただいて情報提供をしたり、意見を聞いたり、あるいは何かそういうようなことをするということが、まず1つ、必要なやろうなということ、進み方としては思いました。

もう1つ、大きなことは、この前の専門委員会でも言ったんですけど、結局、そもそも宇治茶の皆様にお世話になって、今いろんなことを学生とやらせていただいている、たった1日のイベントに何千人かの方にお越しいただいているということは、もともとのきっかけは、学生がよそから下宿して、わざわざうちに来た学生が、宇治に来たら宇治茶に染まれる、さっき宇治茶に染まると出たんですけど、本当に同じことを学生が言ったんですね。宇治茶に染まれる、もう宇治茶見たくないというぐらい宇治茶を味わえると思っていたけど、そうじゃないと。それがさみしいということを学生が言ったことがきっかけだったんですね。それは、どういうことかという、観光行動的にいうと、今の若い人たちは多分、日本で最大の観光地はディズニーランドやと思うんですけど、多分、ディズニーランドに行ったら、こんなことがあるはずや。すごい下調べもし

て行って、行ってみたら、やっぱりすごい、思っていた以上にすごい、だから、また行くということをして繰り返していると思うんですね。そしたら、行くたびに、また違うものがあって、また、さらに楽しいという。そういう意味では、来てもらったらわかるということを超えて、やっぱり期待が持てるような情報発信をしないといけないし、お越しいただいたら、その期待を、さらに上回る面白さを提供しないといけないので、そういう意味では、本当に、そこはできていないんじゃないかなというのは思います。

変な話なんですけど、観光客の1人として発言すると、それがあればいろんなところに行って、いろんな施設に行って、確かに楽しいんだけど、また行ったときには、あそこのあれをもう一回食べようと思うんですね。これは、すごく下世話かもしれないけども、胃袋は覚えているというか、そういうところにさっき食文化と北村さん、おっしゃっていたんですけど、それと先ほどの歴史文化をどうつなげるのかということ、もう少し考えていかないといけないなと思います。

ただ、やっぱり大きな問題は、最初の話に戻れば、それを誰がやるねんという、どうやってやるねんということは、今まできっちり、どこでも話し合われてきていないので、そこは本当に考えないといけないなと。だから、先ほどの資料のところ、専門委員会からの意見ということで、コンテンツ開発とか商品開発とか、それから先ほどの浸透という意味でいけば、それは人材育成であったり、研修であったりと思うんですけど、そういうところをきちんと大枠としてやるんだということを明記して、具体案は委員長のおっしゃったように、できつつある中で考えていくということかなと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。少し話を進めていきますと、おおむね観光の設定とか方針については、もう少し、アクションプランのレベルの進め方なり中身のほうがどんなのかによって、この計画の成功かどうかというところが、大きくかわってくるというご意見であったかなと思います。

ちょっと話は変わるんですが、せっかく教育部長さん、お越しになっておられるので、学校教育の中で、児童が商店街でおもてなしの勉強をするというようなことを、例えば嵐山なんかでは、やっているんですけども。単に子供がやるということの教育的効果もあるんですけど、それがどうやったということを、家へ帰ることによって、市民の人たちが関心を持つという、非常にいろんな効果が出てきたり。例えば、お母さんの読み聞かせの会が、地元の京都の昔話を民家で観光客に語るとか、そういういろんな市民のかかわり方というのは、結構いろんなところでたくさん可能性があって、観光は大きな教育の成果なり市民自体の少し価値観を変えてもらうようなきっかけにもなるんですが。お茶を飲むことなんかはやっておられるかとは思いますが、観光と教育との接点では、何かお考えとか、特にございませんでしょうか。すいません、突然振りまして申し訳ありません、せっかくお越しになられておられるので。

【中谷委員】

学校教育全体と観光とのつながりというのは、非常に難しいかなというふうには考えています。特に、我々は義務教育というのを預かっておる立場でございますので。ただ、特に中宇治地区に

ある菟道小学校におきましては、例えば鶉飼いを毎年見させていただくであるとか、また、まち歩きの中で、例えば、お茶屋さんのほうに訪問させていただいて、いろんな宇治茶のことを学ばせていただくとか、そういったことは、立地条件が非常に恵まれているというところで、この小学校は恵まれているなというふうには考えています。ただ、それが全市で統一でできるかと言いますと、これはなかなか難しいところもあります。中学生の職場体験においても、工場が多いところに立地している中学校は、やはりどうしても工場群で職場体験をさせていただくこととなりますので、例えば宇治中であれば、中宇治地域の、そういったいろんなお店で働かせていただくことができるんですけども、学校教育全体で観光とはなかなか結びつかないかなというふうに思います。

また、違う観点で言わせていただくと、うちが所管しています源氏物語ミュージアムにおいても、やはりお客さんが来ていただくのに、一番喜んでいただくのは、やっぱり名誉館長である瀬戸内寂聴先生が来られたときでありますし、その時はやはりコアなご婦人方がたくさんお見えになります。こういった方と、その方を対象にする事業と、一般の観光の方と、どちらにスタンスを置くのかというところが非常に難しいなと。瀬戸内寂聴先生も、かなりご高齢になっておられますので、そのバックアップがなくなったときに、源氏物語ミュージアムをどうしていくんかということを我々、教育委員の部分としては課題かなというふうには考えております。

【坂上委員長】

地域的には何か交流していける余地はあるというふうに。

【中谷委員】

学校教育分野においてですか？

【坂上委員長】

はい、今のお話は、比較的近い部分については少し一緒に考えていける余地はあるということ

で。

【中谷委員】

さっきも言いましたように、中宇治地区にある学校におきましては、こういったことも可能かなというふうには思いますけども、何分、学習指導要領が改正になりまして、教科書もかなり分厚くなってしまって、夏休みも短くなって、非常に学校現場としては多忙な状況になっておりますので、その中で、こういった時間を工夫するのかというのは、ちょっと検討課題かなというふうには考えていますけども。

【坂上委員長】

どうぞ。

【森委員】

今、教育委員会にご協力をいただいて、先ほど、宇治茶のスタンプラリーをさせていただいているという話があったんですけど、最初は宇治橋通りでの将来連携スタンプラリーということで、菟道第二小学校の3年生の学習と連動して、1年間の取り組みとしてさせていただきました。あえて菟道小学校じゃなく菟道第二小学校という、ちょっとエリア外のところにお声がけをさせていただいたということがあったんですけど。それ以来、校長会のご協力を得て、先ほど、中谷さんがおっしゃったように、本当に授業内でやることは大変だったけれども、少しでもそういう地域文化に触れていただくということで、小学生の全児童に、そのイベントのご案内をしていただくというご協力をしていただいているので、参加者を見ると、中宇治地域以外の全市域的な小学生の方に、ご家族でそういうイベントにも参加をしていただいています。ですので、教育のほうには相当なお力添えをいただいていると思っています。

【坂上委員長】

ありがとうございます。この観光アクションプランのほうでは、都市整備のほうでは比較的、予算に基づいて、しっかりとした関連する項目が、限られた予算の中ですから、明確に出てくると思うんですけど、その辺は整理して、このアクションプランとかにあわせて整理をしていくことは、お考えだと思うんですが、何かご発言がありましたら。

【木下委員】

まちづくりを担当しています都市整備部長なんですけど、今、この観光振興計画で考えている中身、それから今日、いろいろご議論があった基本理念、こういった中身と、今、私たちの部署が中心になって進めています歴史まちづくりという取り組みと、基本的に方向性は何ら変わらないというふうに思っています。今日、いろいろデータも見せていただく中で、いわゆる都市整備部局が見るまちづくりの方向性を観光客の目線のアンケートなんかの集約でもって本当に裏づけていただいたのかなという感じを、さらに深く持ちました。

その上で、いわゆる昔から伝わる社寺仏閣、それをどう活用するか。それから景観をどう守っていくか。今の景観がつけられているベースとなっている宇治のお茶、あるいは茶文化、そういったものをどうやって守っていくのかというのは、まさにまちづくりと一体となって観光を考えてこそ実現していくのかなというふうに思います。観光の側面に限らず、いろんなまちづくりの側面で今日、委員として来ていただいています地域の商店街の方々とも、既にいろんな連携を進めさせていただいているところでもございますので、今回の具体的なアクションプランの中でも、歴史まちづくりの1つの事業として取り組めるものは、どんどんしていけるのかなと思っています。

それと、歴史まちづくりのやっているやり方で、ひょっとしたら参考になるかもしれないんですけども、なかなか限られた時間で、こういう計画をつくりますと、すべてがすべて計画に盛り込めないものが出てくるでしょうし、それから事業の熟度というのは、ある程度、固まっているものもあれば、そういった固まったものを見て思いつくものも、きっとあると思うんですね。歴史まちづくり計画の中では、コアなものだけ、とりあえず決め、その後、思いつくものは随時取

り込みますというスタンスでいます。ただ、何でも取り込めるのかということ、そうじゃなくて、別途、振興の委員会へ持って行って、その中で審議もしていただきながら、これはまちづくりにプラスになるねというやり方であれば、その計画に盛り込んでいこうというふうな取り組み。これは法律でもそうなっていますので、そういうやり方もあるかなと思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます、大変ご意見いただきまして。コアなものは、ちゃんとこの計画でも決めておいて随時、商店街さんから意外なアイデアが、それから学校から出たりとかしたものについても、その都度、取り込めるようにという考え方をしておく必要があるのではないのかなというふうに感じました。

環境部長さん、いかがでしょうか。ごみだけ残されても困るので、全体のかかわる部分、ございましたら、ぜひ。

【松田委員】

市民環境部長の松田でございます。この計画の事務局をしております商工観光課の所管をしておりますので、どちらかといえば、今日の資料をつくるに当たって一緒に、こうしようか、ああしようかという話をしてきた立場にありますので、語り口が少し異なるかもしれないんですけども、私ども、用意させていただいた基本方針というものを、行政の中で練ってまいったんですけども、今日、皆さんからフリーにお話をいただく中で、くしくも同じことを違う語り口でおっしゃっていただいたのではないかなと。

例えば、宇治らしさという形で、今日は資料に私ども、書かせていただいておりますけれども、神居住職さんがおっしゃっていただいたように、宇治茶に染まったらいいというようなご意見もいただきましたし、また、おもてなし力という形で一応、表現はさせていただいたんですけども、各商店街の皆さんのご苦勞のお話を聞かせていただきますと、まさにその部分ではなかろうかと。いかに皆さんが1つずつご参加をされて、お店以外の方にも同席をされてというお話、非常に感銘を受けて聞いておったんですけども。そして情報発信力という堅苦しい言葉を使いましたが、東京に打って出るとか京都に打って出る、そして前回もお話あったんですけども、JRの奈良線の宇治駅ではなくて京都駅に立ったときに宇治のほうに向かうというイメージがないというお話もいただいたと思います。こういったことを、やっぱり皆さん、思っていたていることは同じなのかなと。こういう中で、できれば明解なコンセプトの下に皆さんのお立場で進めていただけること、そして行政が担うべきこと、実施主体を明らかにしてというご指摘もありましたので、そういった形で、この計画をつくっていただけたいかなと。

同じ行政計画のつくり方ということなんですけれども、やはり観光の分野というのはメディアにも大変左右されますので、一たんつくって、それを10年間、ずっと目標にしようかというのも、ちょっと今、そんな時代ではないというふうにも思います。日々、新たなことも出てきますし、人々の心というのが、ワッとあっち向いたり、こっち向いたりというのを、今の世の中の特徴だと思いますので、そういったものにも対処できるような形のものをつくっていただけたいかなと思っています。

あと1点だけ、我々、行政のチェック機関であります市議会のほうから、先月になりますけども、6月の定例議会の中で市議会議員さんのほうからご意見を幾つか、この計画に関していただいておりますが、いろんな細かいこともあったんですけども、その主たるものは、やはり宇治市民の方に宇治という観光の資源をいっぱい持っているまちというのを誇りに思ってもらえるような仕掛けを、ぜひこの観光振興計画で入れてほしいということが市議会議員さんのほうからお話がありました。

これは、ちょっと立場を離れて、私、一宇治市民としてなんですけど、西宇治のほうに住まいをしております。ですので、通常、なかなか観光資源と生活の中で接することはないんですけども、親戚が来たら平等院へ連れて行ってとかということが宇治市に住んでいる人たち皆さんに、そういうものがあるんだよということがわかるように努めていくというのも行政の役割でもあるのかなというふうには思っているところでございます。

また今後、どちらかといえばアクションプランのほうが大事になってきて、皆さんの思っていることを挙げていただく中で、方向性というものが固まっていくのかなというふうに思っておりますので、ぜひたくさんのご意見をいただきたいというふうに考えているところでございます。

【坂上委員長】

ありがとうございます。今、ご指摘いただいた市民の誇りに思うということについても、アクションプランの中でどうすればいいのかという議論を、ぜひしていく必要があるかと思えます。山本副委員長どうぞ。

【山本副委員長】

計画期間ということなんですが、平成25年から平成34年、この34年というのは、あと10年後。この10年後には、宇治はどんだけ変わっているかということは今、ちょっと考えてみたんですけども、そのときにはJR奈良線は複線化になっておもしろいでしょう。そして、もう天ヶ瀬ダムが再開発をされて多分、ダムからの放流量、1,500トン放流まで可能なダムにはなっていると思います。そう考えますと、今、JR奈良線というてますけども、このJR奈良線という名前も、ひとつ皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。これは、やっぱり行政の木下部長、今からJR奈良線に、何とか宇治の名前を入れていただくようなことを考えていただきたいと思えます。

これは私の考えですけども、今でもまだJR奈良線と言いますけども、京都駅から観光客が電車に乗られるとき、また淀屋橋、梅田、あの辺から宇治へ来られて、鉄道を使って来られるお客様に、いかにその場所で、今おっしゃっている宇治茶、また歴史観光のまちの宇治を宣伝できるかということが、大変重要なことではないのかなとは思えます。これから、この南部のほうは、ひょっとしたらサッカー場が城陽にできるかもしれません。これは今年の9月に決定されるでしょう。もし、そうなったときには、その5年後のアクションプランに、また少し変わってくるのではないかなということを考えております。ぜひ、そういうことも皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

【八木委員】

これは私個人の意見です。かねてからJRさんと連携をして今、山本副会長がおっしゃたように宇治茶列車を走らせようということで、大阪から京都駅までの間という話でお座敷列車をというようなことも、いろいろと計画をして、具体的に折衝しに行った記憶があります。そのときに、最後のネックは、やっぱり複線でないのでダイヤが本当に過密なので、なかなかできないと。それと、宇治駅には停車すると1列だけが入れないとか、いろんなことがあったので、それをまた実現できるかなと思っています。それと、もう1つ、私も奈良線の名称がどうやとということで、何回もJRの方とお会いする機会がありまして、具体的に話をしました。そうすると、それは、もう各地元からどんどん声を出してくれと。ええアイデアを出してほしいというようなことをおっしゃっていましたので、そういう流れで乗るかもしれませんので、ぜひ、この計画の中でも、ちょっと書いといたほうがいいんじゃないかということでございます。

【坂上委員長】

ありがとうございます。大阪からは学研都市線とか大和路線というふうに名称が新しく最近できましたので、これは振興局のほうが事務局をお持ちなんでしょうか。何かご発言ありましたら。

【林委員】

事務局といいましても、直接私が所管をしておる部局ではないので、あまり無責任なことは言えないんですけども、やはりJRの複線化については今、まさに計画ということでやっていますので、その活用というのは当然考えていかないといけないということで、これはもう振興局というよりも京都府として考えていかないかなというふうな動きにはなっています。それは、高速道路、新名神ができる、凍結解除になっていけると。そちらの利活用も、やっぱり考えていかないかなということもありますので、新名神の凍結解除とJR複線化に向けて、どうしていくんかということは当然、考えていかないといけないと思っていますし、その中で名称というのがいいのか、愛称というのがいいのか。例えば東海道線でも滋賀県内を走っているところでは琵琶湖線と言ひ、京都から大阪まで行く間は京都線と言ひというようなことで、あれも愛称という形になっていますね。今、ちょっと錯覚しとったんですけども、JR奈良線も実は起点、終点は奈良ではなくて木津駅から京都駅までの間らしいですね。もともとは奈良からだったのが、何か関西線ができてどうのこうのみたいなのがあって、今は正確には木津、京都、京都府内しか走っていないのに何で奈良線なんやと。私も最初、こういう言い方をしたら何ですけども、中心からよそに行く、その最終点のところは線の名前なんだと。だから、できた当初は奈良に行っったから奈良線なんやという勝手な理解をしとったんですけど、どうも、そうでもないみたいということであれば、今、山本さんがおっしゃったような形で言っていく余地はあるのかなというふうには思うんですけども。そのぐらいにしときます。

【坂上委員長】

宇治茶のほうも所管されておられるんですか。

【林委員】

宇治茶はしていますね。

【坂上委員長】

コメント、宇治茶の面をいただきたいと思うんですが。

【林委員】

それで、ちょっと私も京都府とか山城の局で言われると宇治市さんというよりも、やっぱり山城全部のことを思ってしまう、JR奈良線の愛称もそうですけども、簡単に、じゃ、宇治線にしましょうとは言えない部分はあるんですけども、宇治茶につきましても、確かにいろんなご意見が、やっぱりあるんですね。先ほど会頭がおっしゃったように、いろいろあるんです。

ただ、これは議事録に載せてもらうのはどうかという思いもあるんですけども、よそで聞きますと、やっぱりペットボトルができてから、どうも「お~い」というのがつくお茶がメジャーになってきているよと、そういうような声も聞くんですよ。だから、若い世代は、ひょっとしたら宇治茶よりも静岡というふうになりかねへんかなと、そんな懸念もするぐらいなんですけれども。じゃ、それをほんまの日本茶の味なのかというと、またいろんな議論もあると思うんですね。

ですから、そういうことを考えるよりも、むしろ先ほどからおっしゃったように、やっぱり私は打って出るといいますか、そういうことが、一定必要なんじゃないかなという部分を、実は思っていて、ご当地に来てもらって味わってもらうというのも1つの方法だけでも、やはりそれを、ほかでも味わってもらうということがないと、なかなか広がりというのは出てこないんじゃないかなと。待っているだけじゃ駄目なんじゃないかなというふうに、実はその話を聞いたときにも思いましたし、やっぱり会頭がおっしゃったように、そういうことがあると思います。

それと、私どもがやっています観光ということでも、やっぱり山城管内は、なかなか宿泊施設も少ないということで、通過観光となってしまうということもあると。そしたら、1つは日帰り圏で来れる範囲でもってPRしていく、アピールしていくという取り組みも1つは必要だろうと思って、そういう取り組みも、これからしていかないかなと。日帰り圏ということで阪神圏とか中京圏とか、そういうところで山城、あえて山城と言いますけども、山城のことをPRしていくという活動が必要だろうと。

それと、もう1つは、京都も、森先生がおっしゃったように、昔は修学旅行といえば京都だと。ところがディズニーランドができてから、今はディズニーランドの方も多いと思うんですけども、そのときに、やっぱり修学旅行生を招いてくるのに、そういう売り込みを各学校にされたように聞いているんですよ。やっぱり、そういうターゲットを絞った営業といいましょうか。それは、修学旅行という学習の機会であったとしても、そういう売り込みをしていくことによって、もう一遍、京都に修学旅行生に来てもらうというようなこともされたように思っているんで、そういう活動も必要なのではないかな。それと、じゃ、遠いところからみえる方は全然要らんのかというと、やっぱり京都に来るときに、JRの東日本さんで「そうだ、京都、行こう。」というキャンペーンを首都圏ですておられたことで京都にたくさん来ていただいていると。そうすると、京都に

行ってもらえる方々、宇治、山城に来てもらうという流れもやろうと思えば、やっぱり遠隔地での京都の営業にも取り組んでいかなあかん。いろんなことをすると、また総花的になってしまうんですけども、やっぱりある意味、なかなか情報の発信というのは難しいなと思うのは、発信力というのは幾らホームページを開いていても、見てもらわないと駄目で、やっぱり見てもらうためには仕掛けていかなあかん、ある程度、営業が要る。そのためには具体的なアクションプランが要るというようなことが、やっぱり必要なんではないかなというようなことを思っておりまして、私どもとしても、仮にこれに観光していくとすれば、そういう活動をしていかなあかんかなというふうに思っております。

【坂上委員長】

ぜひ京都府の力で、宇治市もバックアップをしていただきたいと思いますが。

少し観光戦略、アクションプランのところでのご意見を、まだ少しお時間ありますので、いただければと思うんですが、例えば、この宇治茶ブランド活用戦略は誰が中心になってやるのかというと、もう何となく出てくるんでしょうか。出ますよね。今、ふと顔上げられたお二人の方がおられたので、お二人が尽力をしていただければ、可能になると思っていますので。これは京都府さんもかなり力を入れて今までやっておられますし、宇治茶については、パリまで行ってPRしたりとかされておられますから、そういう意味では非常に心強く今までのこともあるんですけど、ただ、まちづくりとの連携というのは、これはちょっとやっぱり市が中心になって駅が染まるというぐらいの展開をするには、具体的にはどうしたらいいかとかというようなことは、もう少し検討していく必要があると思っています。

2つ目は商品開発力活性化戦略。この商品は、土産物のことというふうに理解すればいいのか。観光商品は観光コンテンツのところですね。そうすると、商品開発力というのは土産物、食とか、そっこのほうになるのでしょうか。はい、どうぞ。

【事務局】

事務局ですけれども、今回、観光戦略のところでも、一端出させていただいていますのは、専門委員会をこの策定委員会の前に実施させていただいています。資料6というところがあるんですけども。その中で主にご意見をいただいたところについて、色々特性のある中では、やっぱりこれから宇治茶というものを1つ、アピールしていく必要があるんじゃないか。

そのほか、商品開発力の面では、リピーターがみえているけれども、たくさんみえている割にお金を使わないリピーターが非常に多いと。それは何でやというと、やはり食べ物であるとか、お土産品に、それだけ買いたいという購買力を生かすだけの魅力に、今の状況では欠けるんじゃないかといった意見があります。さらに、観光コンテンツといった部分では、たくさん豊富にいろんな資源があるんですけども、それをもう少しストーリー性があるといいますか、そういったものをつくっていけば、向こうから情報も取りに来るやろうし。そういったことがございまして、そういった部分で今回の資料としてまとめさせていただきました。ただ、ここの部分につきましては、専門委員会の中でもいろいろご意見がありまして、次回までに、もう少しそれぞれのご意見をいただいて、それをまた整理した形で、ここに埋めていきたいなと思います。それで、

今の段階では、今回、策定委員会さんのほうから、こういった視点といったところでご意見をいただければなというふうに思います。

【坂上委員長】

ありがとうございます。何か、この辺、先生。

【森委員】

今、事務局のほうから観光協会の専門委員会の報告が資料6に基づいてありまして、その中で出てきた主だったメニューというか、手段についての補足説明があったと思うんですけども、専門委員会の座長をさせていただいている立場から少しご報告というか、お願いを込めてなんですけど、させていただきたいんですけども。実はアクションプランを立てるということは、先ほど、例えば古賀さんも専門委員会に入らせていただいているので、かなり具体的なことからいかないけないんじゃないかというご意見があったのも、実はそういうお立場も踏まえてということだと思んですけど、実は専門委員会の中には観光当事者の皆さんにたくさん入らせていただいています。お茶関係の方も入らせていただいていますし。そのときに、やっぱりこういうことをやりたい、やろうという、やっぱりアイデアとか思いのようなものが具体的に挙がってこない、なかなかアクションプランというのは、こういうことをやるべきだとか、やったほうがいいとか、何かそういうような理念的なものではないわけですね。そのあたりが、1回の会議でそこまでまとめるというのは時間不足ということもありましたし。前回の1回で私、かなり率直に意見を言ってしまうと、お気を悪くされた委員の方もいらっしゃるかなと思うんですけども、これまでの宇治市の観光の取り組みというのが、前回の振興計画自体の総括の中にもありましたが、こういうプランをつくるのは市の仕事で、その中でここをやってくれと言われたら業者は協力をする、協力を惜しまない、業者は業者で頑張っているんだという、一緒に宇治のまち全体を盛り上げるために、あるいは宇治市全体の未来のために、観光部門が中心的な役割を果たそうとか、それを核にまちづくりをしようという、そういう考え方では多分今までなかったんだろうなと思うんですね。時代性もあると思うんですけども。なので、事務局に私が今、お願いしているのは、それぞれの組合さんとか協会さんとか、いわゆる業界の皆さんがいらっしゃるの、そういうところにヒアリングを掛けていただいて、具体的に今、取り組んでいらっしゃることは何なのか、何を頑張っているのか、何に困っているのか、何をしたいと思っっているのか、シーズをきちんと拾い上げていただいて、それをアクションプランの入れていけるようにしたいなということで、ちょっとここは手間をかけて、むしろそこに手間をかけることで実際、この計画が策定されたときに、じゃ、やろうというふうに持っていければ、本当は理想だなというふうに思っているんですけど。今日、ちょっと項目が上がっていないのは、実はそういう事情があるということです。

【坂上委員長】

では、これは次回までに、ある程度のところは、すべて完璧にはできないと思うんですけど、ある程度のところまでは、ご意見をいただきながらまとめていただけたということと理解を

させていただきたいと。はい、どうぞ。

【森委員】

今が事業者さんとの関係の中でのアクションプランの柱立てなんですけれども、策定委員会の委員の皆様をお願いをさせていただきたいのは、例えば、さっき、都市整備部長の木下さんがおっしゃったような、例えば歴史まちづくりの観点からの町並み整備であるとか、あるいは文化資源の発掘と保全であるとか、あと交通網の話在林さんがされたと思うんですけど、交通網の問題、マーケティングの問題とかをされたと思うんですね。そういうのも実はこのアクションプランの柱として必要なわけだと思うんですね。なので、観光当事者の方の中心な意見が専門委員会から上がってくると思うんですけど、もう少し全体をにらんだときに、例えば山本会頭がおっしゃったような、そういったもの、大きな交通網全体のイメージづくり、イメージ戦略とか、そういうのは、ここで、ぜひ足していただきたいなというふうに思います。

【坂上委員長】

役所の役割だと思いますので、インフラのほうについて関連するところについては、この計画にしっかりと位置づけをしておいていただくということで、観光自体は、実は役所がやれるのは数パーセントだと思うんですね、私は。ほとんど8割から9割は民間が頑張ってもらわないとできないことが多いので、これをあまり役所が9割できるというふうに見ないほうが結果としていいものできてくるんじゃないかなと思います。よく会議をすると、役所の人さぼっているとか、袋たたきに観光の会議があるので、これは間違いで自らのことを自らできていないと言っているのと一緒のことになりますので、その辺の役割分担を明確にしておく必要があるかと思えます。ただし、役所は共通の機会と場は積極的に提供させていただいて、皆さんが活発に動くということについては、必死になって多分いろいろされるかと思いますが、そこで踊る主役は、やっぱり民間でないとおかしくなります。そここのところは、少し整理が必要かなと思います。

私は、この5つの中でのご意見、何かせっかくの機会で、何かこういうアクションがあればいいなど。どうぞ、はい。

【中西委員】

アクションを考える前に、フィールドの大きさ、政策ですけども、やってはいけないという明示、それも政策やと思うんですよ。フィールドがこれぐらいという範囲でないと、例えば去年、灯り絵巻で鳳凰のレプリカをつくったら怒られたとか。あれなんか、どこまでがええのか、わからへんですね、はっきり言うて。そやけど、これは触れる、そこまでの領域はあかんという、何か、民が考える場合、とてつもなく行くからね、実際に。何でいう感じやね。その尺度が全然違うからね。そやから、そういうやつは前もって、この辺だけはというのがあれば、ちょっと明示しといてもうて、注意深くそれは検討していこうじゃないかと。

【坂上委員長】

常に役所の人を友達だと思って、いつでも相談できるという、そういう気持ちが大切かなと。

でき上がってから持っていったら駄目言われたら腹立ちますよね。だから、ちょっと下書きとかアイデアレベルのときに気軽に相談できる人を持つ、あるいは役所のほうも気軽に相談できる体制ができているという、そこが結構重要じゃないかなと思います。

【森委員】

実は、この前、専門委員会で宮城さんがお越しになっていて、終わった後に冗談話で今度、改修をされますよね。1年半、閉じられるので、いや、困りますよねと。ご苦労もされていて大変なんです。私、冗談半分、もし通ったらいいなと思って、多分、私も民の人と同じで、とんでもないことを言ったと思うんですけど、あの鳳凰堂の前に書き割りをつくって、そこで1年半だけ写真撮れるとか、そんなんでしょうかと言ったんですよ。そしたら、めっちゃ笑ってはったんですけど、でも駄目ということなんですけど。例えば、そういう、さっき委員長が場の機会とおっしゃったんですけど、今回の専門委員会で、すごく私はいいなと思うのは、そういう、相当踏み込んだ冗談をお互いに言える関係ができつつある。先ほど、神居さんが宇治茶に染まる町になればいいと。これはこれまで一生懸命頑張ってきたはって8割、9割の観光客が来ている平等院さんが、もう次は宇治茶で頑張らしようということをおっしゃっていることの意味というのは、私は大きいと思うんですよ。だから、それを市民が前向きに受けとめて、みんなでやろうというふうになって、どんどん言って一緒に話し合っていけばいい。それを、行政がいい形で、そういう場と機会を設けていただければ、また違うステージに、みんなで進んでいけるんじゃないかなと思って、私は結構、そういう意味では期待しています。

【坂上委員長】

ありがとうございます。いちいち、こういう会議を開かなくても、実質的に会議がなくても情報交換できるような仕組みができています。仕組みというほど大げさじゃないんですけど、いつでも誰でも電話かけたら聞けるという、こういうことが実は合理的で、またお金かからない仕組みだと思いますので、活発にそういう仕組みが、この推進対策の中でも出てくると、非常にいいのではないかなと思います。

【通円委員】

観光茶園のことなんですけれども、先ほどの10年先の議論、太閤堤のこれからの整備、開発があると思うんです。一時10年ほど前に構想があったんですけど、観光茶園構想も以前、ポシヤってしましまして。やはり宇治茶を訴えていくには、太閤堤の開発にかかっていると思うんです。今のところは、あそこの茶園って少ないんですけど、あそこは、どういうふうになっていって、どういうふう利用してPRしていくのか、もう全然我々はわかりませんので。

おとつい、伏見の商店街の方とお話したんですけど、伏見の商店街の方は非常に危機感を持っておられます。今までは、商店街というのは、大手筋と納屋町、それから竜馬通り商店街、みんなそれぞれものすごく仲が悪かったんですけど。今、もう後継者になられまして、非常に若返られて、30代、40代の店主の方が、この前来ておられて、非常にこのごろ仲がええねやと。ちょうどNPO法人の観光協会、伏見の観光協会の永山専務が来ておられたんですけど、私が十

石舟を開発したんやと。できたら宇治とも連携して、将来的には十石舟を何とかして宇治まで持っていきたいというような構想を持っておられますし。これからは、やっぱり宇治においても宇治橋通りさんは宇治橋通りさん、平等院通りは表参道さん、源氏タウンは源氏タウンさん、それぞれのが独立したことをやっていますけれども、3商店街が連携して、そしてなおかつ伏見の商店街と一緒にやっていかないと、これからの観光というのは、やっていけないと思うんです。伏見のまちは観光化といったら寺社仏閣があるかといったら、その通り筋からは城南宮さんも伏見稲荷さんも離れてしまっているんです。あのかいわいでは、あんまりないので。商店街があるかというたら、そうでもないし、結局は工業のまちやなと位置づけはなさっているんですけども。そういったことで、非常に迷っておられます。悩んでおられます。

ですから我々と一緒になってやっていけたらいいなと思っていますし、その手助けをしてくださいますのは、やはり行政の方やと思うんです。ですから、行政の方をお願いしていきたいと思います。それから、先ほど木下都市整備部長からお話がありましたけれども、歴まちの話なんですけれども、その歴史まちづくりのいろんな思いがそこにお住まいの方まで、なかなか浸透していないように思うんです。ですから、建てかえられてしまって、もうあと取り戻しができないようになってしまったりもしていますので、やはり古い家に住む、私ところも古いですけど、古い家に住んでいる方は、今、住めないような状況になっているということで、すごく費用がかかるんですね。なかなか補助金というのは微々たるものですし、そういったことで大きなことができないと。ほな、一層のこと、もう建て替えてしまおうかというふうになってしまう方もおありだと思いますので、補助金についても1年だけじゃなくて10年間を出しますよとか、そういうようなことも考えていただかないと、なかなか歴史的まちづくりというのはできていかないんじゃないかと思います。以上です。

【坂上委員長】

ありがとうございます。皆さんの活発なおかげで予定の時間が参りまして、ありがとうございます。総務部長さんから、ご意見いただかなかったんですが、ぜひ次回まで温めといていただきたらと思います。

若干、取りまとめをさせていただきたいと思うんですけど、皆様のご意見をお伺いすると、あんまり複雑な計画にならないほうが市民の方にもわかりやすいんじゃないかなと。できるだけシンプルにうまくまとめていただくようなことを考えたほうが、どうも良さそうだなと思いました。それと、今回はこのアクションプランを中心に議論をしようということで、前回よりは、今日は本音のところが、皆様のご意見の中で出てきましたので、少し熟度が高まったご意見があったのではないかなと思います。このアクションプランの作り方については、また事務局が大変ご苦労かと思いますが、ぜひヒアリングをしっかりといただいて構築できるようにお願いしたいと思いますし、また行政のほうからの計画も、この中に少し取り込んでいただいて、合わせた形で整理をしていていただけたらと思います。今日、出なかったのは、例えばターゲットの話とか、アクションを考える上で誰に向けての商品なのかとかいうようなことも、それぞれ出てこようかと思うので、次の次元の話を含めて、今回は、その辺のところを検討できるといいかなと思います。

最後、ちょっと私の提案としては、駐車場の場所を、例えば市役所の駐車場が土日空いているなら、大観光駐車場になるでしょうから、そういう形にしたら、ここに人が来て、ここから平等院までの回遊性ができるとか、できるだけ公共施設の土日空いているところを観光に利用させていただいて、観光目的のためのわざわざの駐車場をつくるのは大変だと思いますので、何かそういう柔軟な対応をしていただけたら、回遊性が高まるのかなという、非常に現実的なことを何か考えたら、非常に面白いなと思いました。あとは、萬福寺さんとかも含めて、何か循環バスというようなことも含めると、回遊性がより広域的なところも保証できて、面白い展開になるのかなということで、かなり駐車場の配置を、うまく有効に活用すれば、今の観光消費構造が大きく町歩き型に変わってくるのかなという感想を持ちました。私の意見は以上でございます。

では、今日は活発なご意見をいただきまして、ありがとうございました。時間が2、3分、過ぎてしまいましたが、事務局のほうに、まとめをさせていただいてよろしいでしょうか。

【事務局】

長時間にわたりまして貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。本日いただいたご意見を十分踏まえまして次回、資料を作成していきたいと思えます。先ほどもありましたように、事業者等のヒアリングを踏まえまして、実現性の高い計画にしていきたいというふうに思っていますので、また今後ともご協力をいただきたく思います。よろしく願いいたします。

それから、最後ですけれども、次回開催のアンケートのほうで、まだご提出いただけていない方につきましては、よろしく願いいたします。それから、もし前回、会議録のほうをお送りさせていただいていますので、その部分で少し修正等が必要であれば、後で事務局のほうにご指摘いただければというふうに思えます。本日はどうもありがとうございました。

【11.閉会】

【坂上委員長】

お忙しいところ、ありがとうございました。それでは、第2回の観光振興計画の策定委員会を終わらせていただきたく思います。ありがとうございました。